



- 農業共済新聞**
- ☑ [農業共済新聞](#)
  - ☑ [東北営農技術版](#)
  - ☑ [特集 こちら家畜診療所](#)
  - ☑ [購読のご案内](#)
  - ☑ [農業共済新聞アーカイブ](#)

[HOME](#) > [農業共済新聞](#) > [特集 こちら家畜診療所](#) > [子牛を守るための分娩前母牛管理法](#) 【家畜診療所 研修所】

## 子牛を守るための分娩前母牛管理法 【家畜診療研修所】

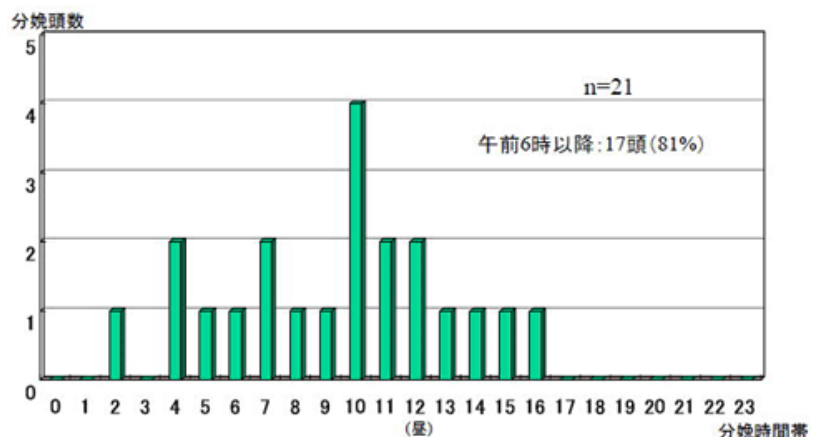
先の掲載で、牛の生産性に分娩は不可欠であることと、分娩時の事故が非常に多いことに触れました。生まれくる子牛を守ることは母牛を守ることに直結します。今回は胎子、すなわち母牛の子宮内から新生子までの管理注意点を確認してみましょう。

言うまでもなく胎子は胎盤で母牛と結ばれています。母牛は胎盤を通して子牛に栄養を供給するわけですから、母牛の、特に妊娠末期の栄養状態が十分かどうかはとても重要な問題です。母牛の栄養状態が生まれ来る子牛の免疫能に強く影響することは、さまざまな研究で明らかにされています。強い子牛を得るためにも母牛の観察を欠かさないことが大切です。皆さんの農場では、来月分娩予定の母牛が痩せているなどということはないでしょうか

### ❖ 夜に餌を給与し昼間分娩を促進

さて、子牛の出生、つまり分娩のタイミングをコントロールすることは可能でしょうか。答えはイエスです。中央家畜診療所最上出張所の小屋正人損防課長のある繁殖農家における調査では、81%が午前6時以降に分娩したということです(グラフ参照)。方法は至って簡単。1日分のエサを夜に給与し、朝になったら残ったエサを取り除く、ということを実行すれば、大体分娩予定2週間前から続けるだけ。これだけで昼間分娩の確率が上がるとすれば、やらない手はないでしょう。

子牛が日中に出生することにより、立会いが容易になり初乳を確実に給与できるメリットが生まれます。初乳に問題があれば、すぐさま代用剤を飲ませることもできます。万が一母牛に何か起きた時にも対応が可能です。このようにいいことづくめの昼間分娩。牛の分娩を人間が制御することは、牛の命を守る意味でやり過ぎではないのです。ただし、この方法は乳牛では無理かもしれません。



最上地区のある繁殖農家における夜間給餌後の分娩時間  
(中央家畜診療所最上出張所・小屋正人調査)

### ❖ 下痢症予防へワクチン接種を

最後に、ここで再び下痢症の話。発育も移行抗体も十分な子牛でも、残念ながら病原体を防ぎ切れないことがあります。現在、下痢症を起こすウイルスや細菌に特異的に効果を発揮するワクチン(牛下痢5種)が市販されています。分娩前の母牛に接種することで、初乳に必要な抗体が高濃度に含まれるようになります。

分娩は「母子ともに健康」が一番です。そのための作戦は意外に簡単ではありませんか？

[🏠 バックナンバー](#) [🏠 このページのトップ](#)

[🗺️ サイトマップ](#) [✉️ お問い合わせ](#)

[📄 個人情報の取扱いに関して](#) [📄 コンプライアンス基本方針](#)

山形県農業共済組合連合会 〒990-2482 山形市久保田一丁目7番7号 TEL:023-643-8341/FAX:023-644-3929